

第5回「立山黒部」世界ブランド化推進会議 議事録

日 時：平成31年4月16日（火）

10:00～12:05

場 所：富山県民会館304号室

1 開会

2 挨拶（石井知事）

どうも皆様、おはようございます。

本日、第5回目の「『立山黒部』世界ブランド化推進会議」を開催しましたところ、西村座長さんをはじめ、委員の皆様、お忙しい中、御出席賜りまして、誠にありがとうございます。

この会議は一昨年の6月に設置いたしまして、前回、昨年の12月に開催しました第4回会議までにブランドコンセプトの決定ですとか、また、かねて懸案でありました黒部ルート的一般開放・旅行商品化についての協定を締結したことの御報告、今後の主なスケジュール、登山道の整備ですとかライチョウ保護対策の強化、火山対策など、世界ブランド化に向けた各種のプロジェクトにつきまして、取り組みについて御説明もし、また、御意見もいただいて、その推進を図ってきたところでございます。

また、昨年12月に立山～弥陀ヶ原間のロープウェイについての中間報告をいたしました。第1案を称名滝～大観台ルート、第2案を立山駅～美女平ルートということで御議論をいただいたわけですが、その後ですね、地元の皆様の御意見、また、自然環境について、さらにいろいろな課題について調査もいたしまして、まずは現行の立山ケーブルカーがかなり老朽化しているということもございますし、何よりハイシーズンの待ち時間をいろいろ少なくするために努力はしているのですが、なお、ハイシーズンでは2時間なり3時間待ちが結構あるということでありますので、このケーブルカーに代わる新たなアクセスの方法として立山駅～美女平駅間のロープウェイを優先的に整備するといったことで、今度の5回目の今日の資料には、そのような考え方で載せておりました。また、その間には国の環境省を初め関係機関とも御相談をして、そういった方向が妥当ではないかというような御意見もいただいているわけでございます。

また、あわせて称名滝をもっと十分に鑑賞できる努力をしてほしいという大変根強い御意見もあるものですから、環境省にも御相談しまして、後ほど御報告いたしますが、大観台にあります展望地、これはかつて昭和天皇と皇后陛下がここから称名滝をご覧になった場所ですけれども、ここにバリアフリーの観点にも配慮した展望台として地元の御理解もいただきながら、環境省の直轄事業で整備する方向で御検討いただいているところでございます。

また、滝を下の方から見たいという御要望もありますが、現状では勾配のある坂道を約30分歩く必要がある。特に御高齢の方とか少し足が不自由な方などについては少し課題が多いということで、これもバリアフリーのアクセス方法、グリーンモビリティとかそんなことを検討するというところで、県としてもそのための調査なども行うことにいたしております。

そんな方向で、昨年12月に御相談したときより大分中身は進展してまいりましたので、これまでの取り組み、今後の主なスケジュール、課題について、今日、説明させていただきまして、また委員の皆様からそれぞれ大所高所の御意見、また、忌憚のない御意見を頂ければありがたいと思っております。ひとつよろしく願いいたします。

3 新委員、新オブザーバーの紹介

【司会】

それでは、議事に先立ちまして、委員、オブザーバーに変更がありますので、御報告をさせていただきます。

筑波大学の吉田委員におかれましては、都合により3月末で退任をされております。

新たに委員、また、オブザーバーとして加わっていただいております皆様方の御紹介をさせていただきますと思います。

委員として、黒部市市長 大野久芳様でございます。

同じく委員として、立山町町長 舟橋貴之様でございます。

オブザーバーとして、国土交通省施設課長 岸谷克己様の代理で、北陸信越運輸局鉄道部次長 神田実様でございます。

なお、本日御出席いただいております委員の皆様につきましては、本来、お一人ずつ御紹介すべきところでございますが、時間の関係もございますので、お手元の委員名簿、配席図をもって御紹介に代えさせていただきます。

4 議事

【司会】

では、早速ですが、議事に入らせていただきたいと思っております。

以後の進行は西村座長にお願いをしたいと思います。よろしく願いいたします。

【西村座長】

おはようございます。座長を務めます西村です。それでは早速、議題に入りたいと思っております。

今日は「プロジェクトの進捗等について」、事務局からの報告に基づきまして委員の皆様方に御意見を頂くということでありまして、できれば全員の方に何らかの発言をお願いしたいと思っております。よろしく願いいたします。

それでは、議事の「(1) プロジェクトの進捗等について」、事務局から説明をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

(事務局より資料に基づき説明)

【西村座長】

ありがとうございます。

各方面においていろいろな取り組みが進んでいるということがよく分かりました。

では、続きまして、プロジェクト11の黒部ルート見学会の一般開放・旅行商品化につきまして、別途、関西電力のほうから資料が提出されておりますので、本日、御出席の藤井代理から御説明をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

【藤井委員代理】

藤井でございます。それでは、別紙でお配りしておりますA4横のパワーポイント、1枚物の資料でございます。タイトルが「宇奈月黒部ルート安全対策工事」と記載してございますが、この資料に基づきまして説明させていただきます。

まず、おさらいでございますけれども、黒部ルートについて左上の資料で、マーカーで示してございますが、赤枠で囲った部分でございます。トロッコ電車の終点であります櫛平駅から豎坑エレベーター、上部軌道トンネル、黒四発電所、インクライン、そして、黒部トンネルを経て黒部ダムまでに至る全長約18キロメートルのトンネル部分になります。

資料に宇奈月黒部ルートと称してございますけれども、これまで単に黒部ルートというように呼んでございましたが、立山から大町に抜けます、いわゆる立山黒部アルペンルート、非常に名前が似ているといいますか、これから一般の大変多くの方がおいでいただくこと、また、外国人の方もおいでいただくことを考えたときに紛らわしいのかなというように個人的には感じてございまして、この資料では黒部ルートを宇奈月黒部ルートと表現させていただいております。

立山黒部アルペンルートを略して「タテクロ」というような呼び方もいたしますけれども、例えば大町からのルートを「ダイクロ」、宇奈月黒部ルートを「ウナクロ」、そして、今週末、黒部に来るのは「ももクロ」でございますが、語呂がいいのかなと思ひまして、もちろんアルペンルートに対して峡谷ルートというのもいいのかなと思ひますが、いずれにしても愛称というのはやはり必要かなと思ひまして、今後考えていく必要があるのかなと思ひてございます。

すみません、前置きが長くなりましたけれども、本題に入らせていただきまして、左下のほうに工事の概要について示してございます。

（関西電力より資料に基づき説明）

【西村座長】

どうもありがとうございました。

ここから皆様方の御意見を伺いたいのですけれども、今日、欠席の田村委員より事前に意見をいただいておりますので、まずそれを事務局から御紹介していただきたいと思います。

（事務局より資料に基づき説明）

【西村座長】

ありがとうございました。 それでは、これから皆様の御意見を伺いたいと思ひますけれども、

議論を3つに分けて進めたいと思います。

まず最初に、一番関心が高いと思われるプロジェクトの16、17のロープウェイ関連について御関係の方々から御意見をい頂いて、次に、今ほどありました宇奈月黒部ルートに関する御意見、そして、最後にそこも含めて全般的な御意見を伺うということで進めていきたいと思っています。よろしいでしょうか。

それでは、まずプロジェクト16、17のロープウェイ関連の御意見ですけれども、想定ルート②、立山～美女平間のロープウェイの整備に関しては、立山黒部貫光が事業主体というようにされておりますので、立山黒部貫光の佐伯博委員、まず口火を切っていただきたいと思っております。いかがでしょうか。

【佐伯（博）委員】

それでは、ロープウェイのほうのお話をしたいと思いますが、先ほどからの説明にもございましたように、今回、想定ルート②立山駅～美女平駅間のロープウェイを優先的に進めるということで決まりましたものですから、会社といたしましては、まずは希少動植物の環境調査ということを取り組むということで、今年、5月あたりから早急に取り組んでいきたいなと思っております。

こういった調査の専門の会社に委託をして調査を進めて、その結果でもって、今後、どうしていくかということとはしっかりと関係機関と進めていきたいなというように思っておりますので、まず何よりもこの調査のほうを進めていくということで、あといろいろな問題もありますので、スケジュールをいろいろ検討しながら今後のロープウェイをつけるための進め方を検討・協議しながら、いろいろな問題点をクリアしたいと思っております。

あと大観台のほうでの展望台ということもありますが、こういった大観台のほうの展望台ということがまず魅力のある、皆さん、降りて見学したいなというようなものになるよう、せっかくなので、そういったものをつくってもらえればということももちろん思いますが、あとあの場所は道路が走っておりまして、道路を横断するような格好での見学になるかなと思いますので、貸し切りバス等の駐車場の整備、そういったものもあわせてしっかりとお願いしたいなという思いはあります。うちのほうのバス等もあのところを走りますので、お客様との事故のないような形で見学できるようにしてもらえればというようには思っております。

あと、今年からですけれども、関西電力さんと御一緒に従業員の制服等も新たに变えまして、山岳観光地にふさわしいような制服ということで地元の富山のほうのゴールドウィンさんの御協力も得まして、従来の運輸会社の着る、ああいった制服ではなくて山の観光地としての制服ということで、例えばスイスの方のああいったところで皆さんが着ておられるようなものも参考にしながら、今年から新たに制服を取り入れたということで、そういった形でお客様をしっかりと迎えたいなとは思っております。

【西村座長】

どうもありがとうございます。

続きまして、地元自治体の御意見として立山町長 舟橋委員、コメントを頂ければと思いますけれども、いかがでしょうか。

【舟橋委員】

今度の称名滝の安全祈願祭を4月26日に予定しているのですが、安全祈願祭をやっても、その日、通行できるかわからない、まだそういう状況になっておりまして、その意味では想定ルート①ではなくて想定ルート②に決まって本当によかったなと思っております。このようなしっかりと調査をしていただきまして、少しでも早く想定ルート②が進むことを期待しています。

【西村座長】

ありがとうございます。

続きまして、立山で宿泊事業を運営していらっしゃる佐伯千尋委員にコメントいただきたいと思っております。いかがでしょうか。

【佐伯（千）委員】

ロープウェイのことなのですけれども、想定ルート②ということで立山駅～美女平間ということで輸送力も上がってくるということで、混雑緩和あるいは解消になってくるのではないかと期待しております。

あと称名滝に関しては、やはり称名滝、日本一の滝でありますので、皆さんに見ていただきたいということで、アクセス等、今、大分検討されているようなのですが、これから先も進めていただければとお願いしているところでございます。また、あわせて大観台の広場等も含めてのバリアフリー化等を改変していただければ思っているところでございます。

【西村座長】

ありがとうございます。

自然環境の保全の問題も非常に重要だということで、県の環境審議会の自然環境専門部会長の鍛冶委員にコメントいただければと思います。

【鍛冶委員】

総合的な考え方としては、田村委員から意見書で述べていただいているとおりだと思いますので、個別の事業の具体化にあたってはいろいろな手続とかアセスメントが行われるとかございますので、そういう中でしていただければいいなと思っております。さほど心配はありません。

大観台に展望台をつくるということなのですけれども、今まで従来だったら通過する人が多かったのですが、こういう場所ができてちゃんと途中で見てくれれば非常に結構だと思います。ここは標高1,500メートルぐらいですか。展望台というのは大体見上げたりするのですけれども、ここは恐らく滝を見る場合は見下ろす展望台になりますので、非常に具体的な話になりますが、例えば場所決めの場合には最初から決め打ちするのではなくて、地形だとかこの場所は非常に展望が

いいとか、邪魔にならないとか、そういうことをきちんといろいろな方向から検討して。それから、展望台といいますのは展望がないと造った意味がありませんが、あれぐらいの標高ですと木がどんどん伸びていくのです。造ったときは非常によく見えて、10年、20年たったら全然展望がきかないなという展望台は日本に結構あります。

ということで、そういうようなことも考えて、さらに、もしも木が大きくなってきた場合は最低限、管理のために、通景のために木を動かす、切るということも出てくると思うので、そういう場合はきっと賛否両論、出ると思いますが、そういうところまで見据えてきちんと説明できるように腹を据えてやっていくべきだと思います。

あとは先ほど言いましたようにいろいろな手続がありますので、きちんとやっていただければいいと思います。

【西村座長】

ありがとうございます。

続きまして、富山県のDMOの会長でありまして「立山黒部」世界ブランド化推進等に対して要望書が出されておりますとやま観光推進機構の会長であります高木委員にコメントをお願いしたいと思います。

【高木委員】

この会議で、着実にそれぞれの参加の委員さんが背負っている分野で進化してきたということは大変よかったと思っています。

ケーブルカーですけれども、私が小学校3年ぐらいのときにできたのです。ですから、もう60年は軽くたっていますので、中身も大分老朽化してきているので、もう待たないなので、今から準備を進めて3年、5年とかかりますので、ちょうどいいところにチェンジできる。そうなればロープウェイを走らせながらケーブルカーの大改修をやる、そういう形になっていけば大変いいのではないかと考えております。

あと環境に際しましても「角を矯めて牛を殺す」ということわざがあるのですが、そんなことにならないようにぜひぜひ環境省さんの御理解もいただいて。今度少し木を切り払うということの話もありますが、その際に先般、御存じだと思いますが、カリフォルニアで大きな山火事がずっとおきまして、カリフォルニアの電力会社が、チャプターイレブンした、破綻したのです。原因は何かというと、あそこも日本と一緒に送電線の下の木を国立公園内ということで切らさなかったのです。結果、強風で接触して山火事の原因の一つです。あの国は訴訟の国ですのでものすごく莫大な金額の訴訟が起きて、一旦整理しないと継続できないということでもあります。

環境とか観光の場合は、そうしたすぐに来る話でないからいいのだろうといいますが、何人かの委員の方もおっしゃっていただきましたけれども、見えない展望台はどんなのという感じです。

ついでに、餓鬼の田んぼの弥陀ヶ原のところにもう一つのブランドであるカルデラが見える展望台が既にあるのです。ところが、そこも造ったときから何十年たったのか、道はあるのですけれども、木が生い茂っていて、15分程歩けば見られるのです。すばらしい景色が見られるのです

けれども、誰もあまり行かないのです。そうすると、ますます木が増える。ですから、あわせてその辺も整理していただくと弥陀ヶ原の魅力も一層増すのではないかと考えております。

【西村座長】

ありがとうございます。

今も話題に出ましたけれども、環境省の国立公園課長の中尾オブザーバー、何か御意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

【中尾オブザーバー】

ありがとうございます。環境省の国立公園課長の中尾と申します。よろしくお願ひいたします。

冒頭、知事さんのほうから御説明がありましたルート①ではなくルート②に進めるという方向について、環境の影響がより大きいと思われるルート①ではなく、現在混雑していて必要性が高いと思われるルート②を選択されるというのは非常にご英断と我々は考えております。

また、大観台の展望施設について環境省で直轄を検討していただいているという御発言もありましたけれども、富山県から強い要望を受けていることは事実でございます。その方向で我々も検討しております。

ただし、現地、大観台の貴重な自然を毀損しない範囲であること、そして、豪雪地帯であるという環境条件を前提とし、かつ、先ほど鍛冶委員のほうから通景伐採についていろいろ意見が出るのではないかと御指摘がありましたけれども、今後、さまざまな意見が出てくる可能性もありまして、そのような地元調整もしっかり行っていく必要があるというように認識しております。

【西村座長】

ありがとうございます。

いろいろな立場の方の御意見を一当たりお伺いしましたので、このあたりで石井知事から何かコメントがあればと考えております。

【石井知事】

それぞれ皆様、ごもったもな御意見だと思います。

今もお話が出ましたようにルート①とルート②とあって、ルート①の称名滝～大観台コースについても非常に眺望もいいのではないかとということで、根強く、そうしたものもいいという御意見があるのですけれども、環境影響なども考えますと、いずれにしてもかなり時間もかけて環境への配慮というのでも考えなくてはいけませんし、一方で、ケーブルカーが老朽化もしておりますし、輸送能力も毎時700人程度で、かつてはピーク時5時間、最近、臨時バスを回すようになって2時間から3時間ということでもありますので、やはりルート②をできるだけ優先してやっぺいこうということにまさしくなつて、この点についても皆様からいろいろお立場がありますけれども、基本的にそうした案というのは妥当ではないかという御意見を頂きましたので大変ありが

たく思います。

これからもアセスメント的な検証が当然必要ですので、もう既に富山県の当初予算にそれぞれの調査費も計上していますし、また、ルート②のロープウェイについては立山黒部貫光さんが事業主体となるということをお考えでありますので、そうすると、その調査は立山黒部貫光さんに自らやっただくという役割分担をして進めております。

また、称名滝、下からアプローチしたいという方についてバリアフリーでグリーンモビリティのようなものを運行することはできないかということについて、これも県として調査してやっております。なお、展望台について、せっかく整備しても何年か経つと見えない展望台になってしまうという御心配もいただきまして、また環境省さんや皆さんのいろいろな御意見があると思いますが、できるだけリーズナブルになるように御理解いただいて整備していきたいと思っております。よろしく願いいたします。

【西村座長】

ありがとうございます。

ロープウェイ関連はこんなところでよろしいでしょうか。ありがとうございます。

では、次の議題に移りますが、関西電力のほうから資料の説明がありました宇奈月黒部ルートと提案されておりますが、この関連で少し委員の皆様方の御意見を頂きたいと思えます。

まず地元自治体の御意見として黒部市長の大野委員から何かコメントいただければと思えます。いかがでしょうか。

【大野委員】

西村座長、どうもありがとうございます。

それでは、私から少し意見を述べさせていただきます。

実は安全対策工事について、これだけ具体的な資料を初めて見ました。私がここまで5年間の間に工事を完了する、5年間の間に商品化を具体化するという中で絶えず、半年でも1年でも前倒しでお願いしますよと言ってまいりましたけれども、それを心に持ちつつも、おおむねこれを了解しなければだめなのかなと思っております。

その上で、大事なことはやはり工事が終わったときにその後、一般の方々が商品化の中で利用されて安全に行けるということが最も大事ですから、それを尊重すればこうなるのかな。

あわせて、もう一つ大事なことは、工事をやっておられる途中における作業員の安全も大事だ。そういう意味においては、実はこの工事中に、今、行っております一般公募見学会、場合によっては回数を減らすということもやむを得ないことがあるのかなと。ただし、その場合に組み込んでほしいのは、やはり回数を減らしても5年後にオープンしたときにいろいろな方々がこのよさを知ってもらって宣伝してもらうためには、日曜祝祭日を増やしてほしいという思いです。回数を減らす中で、そうすると、いろいろな方々、老若男女問わず参加できるとかになりますので、それをお願いしたいなと思っております。

名称について非常にいいアイデアがございました。地元の市長としては大変ありがたいです。ただし、もう一つ、私は欠けているなと思ったのは、実は宇奈月へお越しになってトロッコに乗られて樺平に行かれた方は、そこからそのままずっと黒部ダムに抜けられると思って来られる方は多いと思います。そのことを考えますと、宇奈月黒部ダムルートというようにしたほうが具体的にわかりやすくなるかな。略称は宇奈黒ダムルートといいます。宇奈黒ダムルート、その後は立黒アルペンとか、つまり、「ウナクロ」から「タテクロ」、こういう流れでダムルートを決めるパターンがありますと地元市長としてありがたいな。これは、あくまでも私の提案であります。

【西村座長】

どうもありがとうございます。

それでは、続きまして黒部峡谷鉄道の小橋委員のほうからコメントいただきたいと思います。

【小橋委員】

宇奈月黒部ルートというキーワードを出していただいたのですけれども、私も特に海外などに行ったときに宇奈月の位置というのが中々分かってもらえないというのをよく経験しております。宇奈月というのはトロッコ電車の出発点でもあるのですけれども、黒部川の水力の電源開発のスタートしたところでありまして、そういった意味では歴史的な観点からも、ぜひ宇奈月というキーワードを前面に出して宇奈月黒部ルートあるいは宇奈月黒部ダムルート、そういうようにしていただけるのは大変ありがたいと思っておりますので、そういう方向で進めていただきたいと思います。

弊社は関電の子会社でございまして、実際に上部軌道の保守点検、そして、また軌道の運転を担当しているわけですので、ぜひこの工事が安全にしっかり進みますように安全面、最大限の協力をして頑張ってもらいたいというように思っております。

旅行商品化等につきましては、これからまだまだ魅力の磨き上げであるとか魅力創出とかそういうところが必要になってくると思いますので、それは県さん、市さんと一緒になって頑張っていきたいと思っています。

【西村座長】

ありがとうございます。

随分ネーミングで盛り上がっていますけれども、次に経済連合会の久和委員、コメントいただければと思います。

【久和委員】

黒四ダムができてから、いわゆる黒部ルートの観光化については長い間議論があったのですけれども、今回、関西電力さんの英断で観光ルートとして一般の方が通れるようになるということで、関西電力さんの英断に敬意を申し上げたいと思います。

この後は私の個人的な意見なのですが、ここを通れるようになるというのは非常にいい

ことだと思っておりますが、観光ルートとして見たときに、いわゆる上部軌道というか高熱隧道のところはそれなりに歴史的な意義は確かにあるのですけれども、残念ながら通っても外が何も見えないところでありまして、1回通るとまた来ようかなという気には中々ならないのではないかなという。黒四ダムから宇奈月に抜ける通過ルートとしては非常に重要なルートだと思うのですけれども、眺望したりするという意味ではダムと黒四発電所の間のほうが剣岳の後ろが見えたり非常に眺望のいい地点があるのです。そういうところを宇奈月へ抜けなくても黒部ダムから黒四発電所までの間で、抜けないお客さんも利用できるような形でルートとして考えられたら、さらに立山黒部の魅力が上がるのではないかと考えています。いずれにしても、関西電力さんが今回、相当の工事費をかけてこれだけの対応をされるということで、感謝申し上げます。

【西村座長】

ありがとうございます。

この件に関してはよろしいでしょうか。それでは、ここも含めて全般的なコメントをいただきたいと思います。

ラティナ・インターナショナル代表のモンテベルデ委員、コメントいただけますか。

【モンテベルデ委員】

皆さん、こんにちは。前回は参加できなかったのですが、今まで見ているところ、結構速い程度のスピードで、プロモーションなどいろいろな整備とか進んでいるのです。私が13番のところの意見を出させていただきたいと思うのですが、新しいマーケットですけれども、今までの話では一般的な意見として進んでいるので批判とか追加意見を出すことがあまりみんなないので、また後で。

【西村座長】

今、おっしゃってくださっても大丈夫です。13番、8ページですね。

【モンテベルデ委員】

今、13番のプロジェクトで、いろいろなプロモーションをやっているのです。その中で分析して2014年から2017年の間に220%近い観光客、外国の方が増えているのです。それで見ると、2017年のデータですと61%ぐらいの英語圏のネイティブの方、アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリアですね。ヨーロッパでフランス語圏とかドイツ語圏とか、それはまだ少ないのです。13%しかない。あとほかのものが15%で、台湾の方が多い大きな理由が、多分、言葉です。ですから、田村委員の意見、特別な力があるライターの現地の言葉でトリップアドバイザーを使っていろいろなメディアに意見を書かせることは多分大きな影響があると思います。

例えばこの中で、フランス人とドイツ人で英語を分かっている人が、情報を読んで富山に来ている。英語で読んでいる人達は、理解できるのだと思います。ですから、自分の言葉でいろいろな記事、いろいろなプロモーションをやると、タイ語も入れてアジア、中国、フランス語とかド

イツ語でやることで、大分増えるのではないかと思っています。現地の言葉で良い文章で、富山の立山黒部の記事を書いたり意見を出すことが、とても影響があります。

その後で、これからになりますけれども、ブランドコンセプトを決めて、今度、今年度でそれに対して要望、いろいろなキャンペーンをするのは、多分外国人に対してこれから大きな影響があると思います。いろいろなメディアのトリップアドバイザーも含んでロゴとかいろいろ外国向けにつくると、多分そこで外国人がふえる。今2万人ですけれども、3年間で1万2000人ぐらい増えているのですから、まだ数は少ないが、1万2000人は結構かなりな数だと思いますので、ですから、この方向で頑張りたいと思います。

【西村座長】

ありがとうございます。英語以外のところもつくられるといいということですね。

情報発信という意味では美ら地球の山田拓委員もいろいろなことをやっておられますので、コメントをお願いしたいと思います。

【山田（拓）委員】

事前に資料もいただいているので、この場でどのような発言をすれば皆さんに貢献できるかなと思って、情報発信の話と、あとは今、アクティビティー系のものが幾つか計画をされていて、先ほどの関電の話も含めてなのでしょうけれども、それを受けて、今、県の振興戦略プラン、28年につくられたもの、今日、高木会長がお見えになられていますが、DMOのKPIもあります。結局、今の取り組みは目標値に対してどれぐらい寄与するのかというような視点をもう少し見ながらやるべきなのではないかなと感じました。

といいますのは、先ほど例えば外国人の人数とか、トリップアドバイザーがこれだけ増えましたという話がありますけれども、今、富山県が設定している数値目標には入り込み数はないわけです。延べの宿泊者数と外国宿泊者がありますけれども、入り込み数はないのです。ということは、人数は、あくまで見るべきではあると思いますけれども、評価指標に入っていないものですから、ちゃんと関連するところでは多分消費額になるというときに、この計画を見ていると28年から31年に500億円ぐらいの消費額が増えるサイクルになるわけですが、これにこのプログラムであったりとかロープウェイで人の数が増えたりとかしたときに、人数掛ける消費単価を掛け算したときに500億に個別施策でどの程度寄与するのかというのも見るべきなのではないか。

当然、まだまだ初期段階の取り組みはこれからの予測かもしれませんが、いずれにしても、消費額、設定したKPIにどう寄与するのかということを見るべきかなというように思いましたというのが1点目です。

なので、先ほどの多分関電さんのものもキャパが限られていると思いますし、単体の消費額も掛け算で出ると思いますので、それが先ほどの500億円に対してどれぐらい寄与するかとかいうのをやったときに、そんなにどう計算するかもあるかと思うのですけれども、あそこだけだと難しいので、もう少し広く見ていかないと、立山を見ながら海沿いで楽しんでいただく、そういうようなところで今の施策がどれぐらいできるかというのを検証できればと思いました。

あと、もう一点が今の話で、欧米の人たちに来ていただいて1万人が2万人になっているという話なのですけれども、我々、たかだか10名規模の会社で、多分今年は6,000人ぐらいの利用者が来られると想定になっていますので、そう考えれば当然、魅力を発信したらどんどん増えていきます。でも、それをよしとするのかどうかというポイントがあると思います。

去年、観光庁さんが自然資源のマーケット調査をやって、多分もう観光庁さんのホームページにその結果は出ているのですけれども、自然資源を見に行くと、実際にそこで時間をつくって遊びたいのが7%ぐらい。100人のうち7人しかお金と時間を使って遊びたくない人というのがグローバルの調査をされたものなのですけれども、そういう結果も出ていますので、一部しかないの、ちゃんと絞り込んでいかないと。ただ、今お話ししたとおり、情報を出せば全然いらっしゃると思うのですけれども、本当にそれでいいのかというような視点を持ってやるべきなのかなということは思います。

といいますのは、やはりブランド化。富山の人たちとか国立公園、国の財産ですけれども、今の状況で、まず欧米豪に来てくださるとやるということ、例えば海外の国立公園と比較するとまだまだ遊びのよさ、海外発信というのはまだまだ伸び代があるのではないかなと思っています。その準備を今している段階で、もう少ししてから出るので、そういう部分もブランド化の戦略であるので、そういうやり方もなくはないので、これは私が決める話ではないのですが、一意見なのですが、そういう考え方も入れられる。今、情報発信ということで御指名いただいたので、だって3000万人来ているから、そのうち欧米豪で300万人ぐらい。情報を出していただければ、ただ、それが1点。

例えばですけれども、我々、高山駅併設のi-cafe TAKAYAMAという施設を高山の会社とうちで、JR東海からお預かりして運営していますけれども、そこでアンケート調査をしました。高山に来る人の求めるもののトップ3は伝統が1番、2番目が食、3番目が自然景観、田園風景です。このトップ3を来る前と来た後どうでしたかというビフォア・アフターの調査をしたら、何と3つのうち1つしか上がっていませんでした。その1つというのが食だった。逆に言うと、高山のコアコンピタンス、古い町並み、伝統とか自然が期待外れというのが我々の調査です。さらに見ると、フランス人の年配の方とか属性を見ていくと、がっかり度はそちらのほうが傾斜は激しい。

なので、要は欧米豪、外国人に来てもらおうと。しかも、こんな大きな、多分飛騨高山の我々とは視点が違うと思う。本当に今、開けるべきなのか、ブランド化を考えたときにどうなのでしょうということの一つ検証してもいいのではないかと思います。

すみません、長くなりました。

【西村座長】

ありがとうございます。

その意味では、関連してですけれども、国立公園満喫プロジェクトの有識者会議のメンバーでもいらっしゃる江崎委員、関連してコメントいただきたいと思います。いかがでしょう。

【江崎委員】

やはりすごくたくさんの方のことを調べていただいたり検討していただいているので、多分、この紙の中におさまりに切らないことがたくさんあるのかなと思うのですが、例えばロープウェイの話の中で出てきている想定ルート①というのは可能性が低いのだろうと思うのですが、それはいいのですが、その中で今回、アンケート調査をされた、ウェブアンケートの調査をされたと思うのですが、これ自体はそれほど需要予測というのはなかなかできないと思うのですが、でも、アンケート調査をした内容というのをここは3行ぐらいしか書いていないのですが、例えばどういう属性の方々がどういう反応をしたのかとか、何か中身がわかると、想定ルート①だけの話ではなくて、もう少しほかのことも考えられる。

せっかくアンケートをしたので、何かヒントがその中にほかのことにも使えるようなものが、今、山田さんが言われましたけれども、ここに潜んでいるのではないかなというのを感じたので、ここを3行にしておくのはもったいない。このルート以外のことでも、来訪歴がある方々に向けたアンケートとして、もう少し中身、アンケート設計がどうなっているかわからないのですが、分析してみてもいいという気がしました。

それともう一つが、関電さんのお話の中で、どうしても国交省の方から勧められて「高熱隧道」を小説で読んだのですけれども、すごく衝撃的だったのです。皆さんは読まれましたか。皆さんはどうなのでしょう。そこで多分、工事環境の最後の一文がさらっと書いてあるのですけれども、黒部立山での寮生活というのがすごく私には心配になる部分もあって、やめてくださいという話ではないのです。ただ、これから何かが始まっていくときの物事を実行して取り組んでいって事業として進めていくときに、経営としてリスクマネジメントを考えておかなければいけないなと思うと、例えばそういう今の状況が昔と比べて、この寮生活の安全性はどうか。

やはり働き方改革とかも言われているわけだし、もしも本当にここで昔みたいに何百人が一気に死んでしまうような事故が起きたときに、電源開発の場合と観光ルートの開発が世の中の見方が違うだろうとか結構思ったりするのですけれども、そこが心配になっているので、今後いろいろなことを想定した、企業さんなどだとプレスリリースだとか、そういうことが起きたときの対応とかマニュアル化されていると思うので、そこは関電さんだけではなくて県の会議の中で出てきた話なので、この会議も責任があると思うので、一番お金を出されていて、一番汗をかかれるのは関西電力さんなので、やはり関西電力さんが一番持ってもらうとは思いますが、ただ、リスクというところに関しては、前から言っているように、富山県と一緒にリスクは抱えておくべきなのではないかと思う。いいところだけ行政の実績にするようなことにならないように行程の中でリスクや対応策を今後考えておいていただきたいと思いました。

【西村座長】

2点御指摘があったので、それぞれに少しコメントいただきたいと思います。

1つは、2点目の関電のほうの寮生活のリスク管理みたいなものの心配があるということ。その後で、プロジェクト17、11ページに書いてあるアンケート調査の具体的な中身について、もう少し御説明いただけますでしょうか。

それでは、まず藤井委員代理、どうでしょうか。

【藤井委員代理】

御意見ありがとうございます。特に作業環境への御理解、温かい御意見を頂戴しました。本当に感謝申し上げます。ありがとうございます。

御指摘のとおり、御想像のとおり、非常に山奥の中々すぐには家に帰られなかったりとか、冬、寒い中でも、それも夜間の工事をしていただくということになりますので、作業員の皆様には大変な御苦勞をかけながらの長い工事になります。その期間の安全対策というのは十分に環境を整えることは必要でございまして、もちろん、非常時の連絡ルートもしっかりした確保ですとか、もし万が一、緊急時に何かあったときに輸送手段をしっかり確保しておくとか、いわゆるリスクマネジメントにはしっかりと配慮する必要があると思います。

作業員の快適性といいますか、利便性といいますか、そういったところにも十分配慮しないと、なかなか作業員さんというのは非常に体力的にも厳しいものですから、食事ですとか、もちろん暖をとっていただくのもですし、最近は通信環境といいますか、そういったところにも十分な配慮が必要でございまして、そういった安全面と快適性といいますか、快適な作業環境ではございませんけれども、そういった住環境にも十分に配慮し、安全に考慮する予定になっております。

【西村座長】

ありがとうございます。

それでは、会議資料の11ページのロープウェイに関するアルペン来訪歴がある方へのアンケート調査、もう少し補足の説明を事務局のほうから。

【田中観光振興室長】

前回のところで称名滝のルートについて少しニーズというお話があったので、今回、すみません、そこだけ簡潔に時間の関係もあって説明させていただきましたが、実際は1,000名ということで調査をしました。これは男性、女性500人ずつそれぞれ調査をしましたし、年代も偏りなく20代から60代までそれぞれ来訪された方を調査しております。

実際伺ったのは、称名滝に来るだけでは当然なくて、いつごろ来られましたかというの伺いました。その結果ですと、1,000人に対しまして春に訪れた方が約27.8%、夏が多くて41%、秋が25%ということで、冬も5%程度、皆さん、お越しになっています。

また、何を求めて来られましたかということも当然お聞きしていますので、やはりウエイトの高いものとしたしましては自然景観、ここらあたりが7割ぐらいの方がそれを求めて来訪されています。また、先ほど話がありましたけれども、黒部ダムですとか発電所の関係をぜひ見たいというようなこともあって、約5割弱、48%ぐらいの方がお越しになっています。

このような属性のある方々にお聞きして、今回、称名滝というのはどの程度、滝を見るというのはどうかという話もあったものですから、仮にこのルートが整備された場合、何年後ぐらいにもう一度お越しになりたいですかというようなお尋ねをしたところ、先ほど申し上げましたとおり、1年以内に再訪が20%強、1～3年以内が57%余りであった。このような報告をさせていた

だきましたけれども、個々の属性を含めて調査データはありますので、また今後の施策に当然役立てていきたいと思えます。

【西村座長】

ありがとうございます。

よろしいですか。

最後になりましたけれども、エコロの森の森田委員、お願いします。

【森田委員】

ありがとうございます。

このようないろいろな事業が計画されていて、今後、多くの観光の人が立山黒部のほうに来ることが期待されていると思うのですけれども、私が関与したところでは、滞在プログラムの充実ということでガイドツアーの準備のところに関わっています。ガイドの重要性は非常に高まっていくと思うし、実際も全然ガイドは足りないのではないかという気がしていて、特に多言語でのガイドというのは少ない。そのガイド、いろいろなフランス語や中国語が喋れていても立山の環境について喋れたり、例えば新たな黒部ルート、宇奈月のこととかを、お客様にお伝えできる人は少ないと思えますので、その分野の充実というのは今後必要ではないかなと思えます。

今の関電ルート、カルデラ等も現状何となくたくさんの方が来るよみたいなイメージがあるのですけれども、ただ、たくさん来ればいいというものではないと思うのです。団体ツアーで来る人ばかりが来るわけではなくなっていくと思えますので、そうした人たちが楽しめるようなコンテンツ、そういったものもつくっていかねばいけないのではないかなと思えます。

あと環境の問題、自然の保全とか希少生物のことについてとか、エコツアーをしていく上では、そういった自然の保全についてガイドがよく知っていることがお客さんに伝わって、お客さんもまたその保全や自然環境の大切さというのが伝わっていくはずですので、ガイド自身もスキルアップというのは非常に必要であるということをおもっています。

そういった意味ではまだまだ足りていないので、あと数年の間に頑張っってやっっていくかといけけないのではないかと私たちもおもっています。前にも言ったと思うのですけれども、やはりこの事業が人ごとのように思われないで、県民の方とか事業者の方に自ら自分が立山の観光に関わっていくことが大事ではないかなと伝わっていくか、反対、反対と言う人が増えたりしていくと思えます。その大切さとか価値というのは、観光自体が自分たちの生活にも関係あることだということとか、自然の保全にもつながることだということの情報発信も必要なのではないかなと思っています。

あとはアルペンルートも乗り物もちろん大事なのですけれども、その乗り物以外に私の好きなルートとしては、歩いて登るアルペンルート、トレッキングコースがいっぱいございますので、そうしたところにも人が行き、ガイドと一緒に行って新しい魅力というのが見つかっていけばいいかと思っって、その辺の整備も取り組んでいけば、ますます団体旅行ではなくて個人客がゆったり楽しんでいけるような数、人数が多いだけではない魅力的なアルペンルートになっていくので

はないかと思っています。

【西村座長】

大事だと思います。

山田桂一郎委員、よろしくお願いします。

【山田（桂）委員】

発言のご指名を頂き、ありがとうございます。

今回、「立山黒部」ブランド化推進会議は第5回です。先月25日には私が座長を務めさせていただいているワーキンググループも第5回が終わったところです。2017年6月から会議がスタートして約2年たった現時点で、これだけ多くの資料で説明いただくと現状が理解できると共に関係者の方々の御努力が確実に実ってきていること、先ほど進化されているというお話もありましたけれども、2年という時間の中で立山黒部ブランドの取り組みが着実に進んでいると感じます。そういう意味では関係者の方々に本当に感謝申し上げたいと思います。

私のほうからお話ししたい点は、それほど多くはありません。まずは、滞在プログラムに関してですが、この件は先月のワーキンググループでも様々な意見を出していただきました。先ほどインバウンドの対応や、団体客か個人客かといろいろな話題は出ていますが、こちらが売りたいものではなく、お客さまが欲しいもの、楽しんでいただけることを考えてなくてはなりません。そのためには、とやまDMO（とやま観光推進機構）では地道に顧客ニーズを調べ、最近では有効なデータが蓄積されてきました。マーケティングを進めるための基礎的な価値のある数字がとやまDMOにはあるのです。国内だけでなく、インバウンドのデータも集積されてきました。今後、立山エコツーリズム研究会や他の団体、組織でもデータをしっかりと活用していただいて商品・サービス化等をとやまDMOと一緒に企画していただきたいと思います。誰に対してどういう商品やサービスが満足度を高められ、楽しんでいただけるかということではとやまDMOと連携することで精度を高めることができるのではないかと思います。

今後の取り組み・検討事項の中にアルペンルートの年間パスの導入がありますが、これも年間パス化が実現する時には、ぜひ立山黒部貫光と黒部峡谷鉄道さんには以前からお話をしている通り、そろそろ顧客データベースの構築をお願いしたいと思います。今後のマーケティングやロイヤルゲスト化では必ず顧客データベースが必要になってきます。

日本政府観光局でも、ハードリピーターとしてロイヤリティーが高い外国人旅行者の方々のデータベース化の調査を始めると聞いています。何度も来ていただいているお客様には、より良いサービスや待遇が必要です。良いお客さまをどうやって増やしていくかということを立て山黒部全体で考えていただければありがたいと思います。そういうことでは、今後、とやまDMOとの連携がさらに必要になっていくのではないかと考えています。

次に、環境の保全保護に関しては、新しいロープウェイや登山道の整備等々、環境アセスメントを徹底的にやっていただきたいところがあります。特に中長期的な計画になっているものは一度ではなく、中長期計画だからこそしっかりと調査も継続していただくが重要です。調査回数が

増えることで、こちらが懸念していたことがそれほど大きな問題ではなかったり、もしかすると、こちらが想定していなかったような問題が出てくるかもしれません。なので、調査に関しては継続してしっかりやっていただきたいと思います。

最後に、約2年の取り組みの中でプロモーションについては、先ほどの山田拓委員と森田委員の意見は、外へ向かって情報を提供するというよりは県内の方々に理解していただくというインナープロモーションの重要性について言及されていたと思います。特に山田拓委員から御指摘のあった点として、「このブランド化は何のためにやっているのか？」については、県が進める政策、施策として、観光だけでなく経済や環境、文化などに対しても、県民の生活の豊かさや、地域社会へも貢献していることをもっと積極的に広報してもらいたいです。

今日も地元マスコミの方々がたくさん来ていただいています。「立山黒部」世界ブランド化会議についてのさまざまな報道をしていただくのは結構なのですが、この取り組みの本質的なところを県民へ上手く伝えていただきたいと思います。この会議は何のためにこれらの事業を進めているかということについてはもう少し深掘りしていただいてもいいのではないのでしょうか。どうしても、表面的でキャッチーなところだけを取り上げ、変な対立構造にして県民をあおるような報道も結構見られます。真の情報をインナープロモーションとして県民の方々にしっかりと届けていただきたいと思います。県としても、このプロジェクトが進めば進むほど、県民から評価を受けるような指標があってもいいのと思います。今回のプロジェクトに関してはまずは県民が受け入れてくれないと意味がないと考えます。

あと先ほどの他の委員に意見に対してです。これは余計な話かもしれませんが、宇奈黒ルートの特設トンネル部分では何も見えないとネガティブな意見が出ました。しかし、そこはガイドの方の力量が一番発揮される場所でもあります。スイスで有名なユングフラウ鉄道はほとんどがトンネル内ですが、ガイドからの説明で満足度が高くなっています。楽しく役立つ説明でお客さまを車内で盛り上げて頂上まで連れて行くことができます。ここは森田さんなどの事業者に大いに期待したいと思っております。

【西村座長】

ありがとうございます。

委員の方、一応一当たりの発言は終わりましたけれども、まだ時間がありますので、もし補足の御意見があれば。

では、高木委員、その後、舟橋委員、どうぞ。

【高木委員】

ロープウェイの話ばかりだったものですからちょっと。今の山田さんの話にもつながるのですが、平成4年、実はアルペンルート、国内だけで150万人来ていた。今、国内は75万です。石井知事さんや県の尽力もあって外国人が二十何万来て98万人。このまま行けば確実に100万を超えるどころか、何もしなければ50万になってしまう。そうすると、いろいろなそこに関するビジネスも大変落ち込んでいく。ですから、みんな分かっていることなのですが、人口減少

で、高齢化でお金も使わなくなる、そういう経済下で、やはり観光産業を本当に富山で頑張っていくということになると、維持発展させなければいけないというようなこともまず最初にうたっておくと山田さんの話につながるのかな。

2点目は、いわゆる五つ星ホテルなのです。先般、私、去年、隣の石川県の五つ星のホテルへ行きました、1泊5万円です。何と16室しかないのです。ですから、いつも佐伯さん、心配しておりますが、絶対バッテリーはしないのです。全部入って32名しかいない。日本人カップルは、うちと2部屋だけ。台湾の人が1組、あとは全部、欧米人で、スペイン、アメリカ、カナダ。しかも滞在が1カ月です。1日5万円です。2人で10万するのです。やはりそういうゾーンもぜひそれは弥陀ヶ原がいいのか麓がいいのか、どこがいいのかも含めて、今から時間がかかるので、ホテルについては田村前長官も言っておられましたけれども、今から準備して進めていかないと。すごかったのは、何とスタッフは全員英語が堪能。ガイドさんもそうですし、我々もそうですし、そういうものにすると、これから英語を話せる人をたくさんつくっていくという5年くらいすぐかかるんです。

結びに、せっかく関西電力がここまでリスクをとってやっていただけるのですから、これを県として生かしていくためのさまざまな準備が5年くらいすぐかかると思うので、皆さん、ぜひお願いしたいと思います。

【西村座長】

ありがとうございます。

それでは、舟橋委員。

【舟橋委員】

高木さんに比べて細かい話ですみません。宇奈黒ルートなのですけれども、北陸支社長の藤井さんの説明で「①上部軌道トンネル安全対策」の中で高熱隧道にカルバート設置と、おっしゃいました。カルバートを設置してしまったら高熱隧道の魅力はなくなってしまうのではないですか。角を矯めて牛を殺すなという先ほど高木さんの話もありますが、そんなことはやらなくていいと思いますので、ぜひちょっと。

【西村座長】

藤井委員代理、どうぞ。

【藤井委員代理】

御意見ありがとうございます。

記載がカルバート設置というように説明が省略してございますけれども、カルバートと言いましてもコンクリートで確かにアーチに覆うわけですが、その中には窓枠がちゃんとできています。したがって、列車で通行していただくときに、もちろん安全対策上、ある程度強度は必要ですから柱はありますけれども、窓の部分から高熱隧道部をご覧いただくことは可能なように考えてお

ります。

したがいまして、高熱隧道部、いわゆる黄色く変色している部分もごらんいただくことに多分なと思いますし、熱も幾つか感じていただくことも可能ですし、ゴトゴトという音も十分感じていただけるのではないかと考えていまして、いわゆる五感で楽しんでいただくことは可能ではないかと思えます。もちろん、安全には十分配慮しますから完璧なものといえますか、なかなか両立は難しい面もありますけれども、なるべく楽しんでいただくように対応したいと考えております。

【西村座長】

よろしいですか。

ほか、いかがでしょうか。

山田拓委員、お願いいたします。

【山田（拓）委員】

先ほど高木委員のお話を聞いてそうだそうだと思って、我々、先ほどもお話のように高山駅でアンケート調査をして、これは別に行政から頼まれたものでもなくて、我々、パートナー企業が飲食店と宿泊施設に食品を卸す事業者、この方々に今のマーケット情報をお伝えして顧客満足度を上げようと民間事業者2社でやったことなのですが、飛騨高山、いろいろな見方を皆さん、されていると思いますが、そこで生々しい現実を言うと、さまざまな変化が起きていまして、富山の皆さんにお伝えしたいことは、今までなかった概念が発生しています。何かといえますと、外国人の日帰りの旅行者が出てきている。今までは飛騨高山に行く、イコール宿泊するということだと考えられていたのですが、今、我々が調査していると、駅の利用者ですから地域全体を表しているわけではないのですけれども、何と外国人のうち15%が日帰り。欧米豪とかアジアの比率を見ると全体で15%、アジアの人は20%、欧米の方々は10%。つまり、欧米の方のほうが滞在。もちろん、そういった方々も親和性がある部分なのですけれども、いずれにしても飛騨高山は日帰り、だから、観光統計をとっていないのです。日帰り旅行者と一くりにしかとっていないので、この内訳は日本人とか外国人、今までとっていませんから、それはわかりませんが、我々の調査ポイントである駅だとそうなる。

これは富山の皆さんにどうなっているかという、結局名古屋から、もしくは富山から訪れられている。富山からだと特急で1時間ちょっとなのですからけれども、名古屋からだと2時間ぐらい。本当にワイドビューひだに乗ると基本はスーツケースをがらがら引っ張っているのですが、最近ではデーバッグだけで来る外国人もいる。

名古屋で宿泊施設は増えていきますから、ここから来て滞在時間が1時間、2時間であればJRの乗り放題の切符で帰ってしまうのです。考えたら、富山の皆さん、ビジネスチャンスなのです。やはり新幹線と高山本線の結節点である富山は多分、今までの延長線上で増えていくと、金沢も多分富山から行けばいいよねというのが増えてくると思います。だって、ここに居を構えて、先ほど一月というお話もありましたけれども、富山に荷物を置いて金沢に行く、立山に行く、高山

も行くみたいなのことにすると、かつ食事もおいしいよねと、ものすごい可能性があるところなのです。

駅周辺だけではなく、前、申し上げましたけれども、魚津とかあちらのほう、高付加価値、高単価の宿泊施設も相当のものを。今日は経済関連の方もたくさんいらしているので、ぜひそういう宿泊キャバがどのくらい、かつ、なるべく高単価で一人当たりの価格を上げるものが増えていけばいいかな。本当に富山の観光に日本全国で訪れるのではないかと期待しております。

【西村座長】

ありがとうございます。

久和委員、どうぞ。

【久和委員】

山田委員から飛騨高山の関係の話がありましたが、私も前回、富山というのは、この立山黒部だけではなくて山岳観光の基地に十分なり得る地点だと思っていまして、今、お話のあった高山とか、長野県の上高地などもバスをうまくやれば十分日帰り、富山に泊まりながら観光地で楽しんでくるとか、そういうことができるようになるので、そういう意味で立山黒部だけではなくて長野県を含めた山岳観光の基地になるポテンシャルがあるところだと思いますので、そういう意味で長期的な展望を持って対応していく必要があるかなと思います。

【西村座長】

山岳観光のシンボルとしてですね。ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

佐伯千尋委員、どうぞ。

【佐伯（千）委員】

すみません、先ほどから高木委員から佐伯さんもというような意見がございますので、多分、私のことだと思って聞いているのですけれども、まずは山の上、これを見ていただければわかると思うのですが、非常に厳しいところなのです。なので、山田さんもおっしゃいましたけれども、何を見に来ているのか。立山、富山は何を売っているのだろうということです。特に国立公園の立山ということになりますと、それはやはり自然ではないのかな。明らかに自然でしょう。多分、調査等々をしなければいけないとは思いますがけれども、明らかに見ていただく段階で自然以外にないのだという。

国立公園の中ですから、では、その自然を見せるときに、自然を見るということはここに出ていますけれども、それを忘れてはいけないのではないかな。それを中心にやらないと台なしになってしまう可能性が高いということでもいろいろなものが出てきているのだと私は思っております。

称名滝のルート①に関しても、まずはアクセスをよくして見ていただければいいのではないか

な。やはり自然への影響が少ないだろう、なおかつ一番下で見ると迫力も伝わってくるだろうということで私は考えております。

山の上でいろいろな施設をとということも考えられるのですが、やはり先ほど言いましたようにすごく厳しい世界、その中でどこまで採算が合うのだろう。そういう自然の中でどこまでを選んでいいのだろうということは真剣に考えなければいけない。では、どこに重心を置けばいいのかということになりますと、先ほど言いましたように富山市なのか、あるいはある意味では山麓のかなというような考えを持たざるを得なくなってくるかなと思って見ております。

日帰り圏内。アルペンルートは8割以上、もっとかな。100万人来ていますけれども、山の上で泊まっているのはおそらく20万人程度。それぐらいしかいないのです。1割、2割ぐらいです。ほとんど通り抜けなのです。それをどう滞在していただくか。では、どこで泊まっていただくかということは、今までもあった話だし、これから永遠に続いていく課題ではないかなと思っております。それが富山市なのかどうかということは、そこにいかに魅力をつくるかということになっていくのではないかなと思っております。

【西村座長】

ありがとうございます。

他はいかがでしょうか。

鍛冶委員、どうぞ。

【鍛冶委員】

先ほど大観台の展望台について言いました、あれはせつかく造るならという観点から申し上げました。もう一つ、せつかく作るのであればということで、宇奈黒ルートのことでございます。ダムから樺平までは断崖絶壁を通る道と、観光目的に開発されるルートの両方通っていますが、受ける印象は全く別のものがあります。地上側のほうは当然大自然、大景観でございますけれども、あれは非常に維持管理も大変だと思いますし、年間、少ない年は1カ月にも満たない期間しか利用できないわけですから、そのために年間相当の予算をかけて、何千万円もかけて維持管理をなさっている。一人当たりで割ると相当の投資になっていて、そういうこともきちんと私は観光客に伝わるようにしたらいいのではないかと思います。見えないところでいろいろなことをしているということです。

トンネルは、外は大自然ですけれども、ダムから下流まで水平送水管と発電所が連続してあるので、それを順繰りに見ていくということになるのですが、私の印象は工場見学、発電所見学かなという気がしています。それは人の受けとめ方ですけれども、知らない世界でいろいろな人が働いているのです。あれは日本のエネルギー資源として立山の雪を使ってダム事業をしている。それで京阪神の経済が成り立っているとすれば、そういうこともきちんと地方との関係ということを含めてPRして理解していただくような、自然ガイドの内容にもぜひ。

さらには水平区間が長いわけですから、黒部川の水温というのは日本一低いのです。水質も日本一いいですけれども、それは要するに地上に出ていないからでありまして、そのために黒部扇

状地の農村地帯とか水温が低くて田んぼも稲の生育が非常に従来苦勞して育ててきたということがあるので、そういうところまで含めて立山黒部の自然は、我々の生活と密接に関係しているのだというようなことをこの際、ぜひ知ってもらいたいと思います。

【西村座長】

どうもありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

モンテベルデ委員、どうぞ。

【モンテベルデ委員】

私は高木さんのお話の続きで、第2回会議に初めて出席したときに言いました。私が妻と観光で来て、面白い宿泊施設がなかったのです。五つ星でなくても、ほかのもっと普通のホテルでなくて、経験できる、楽しめる宿泊施設が欲しかったです。なかったのです。合掌造りはありますが、私はそこまで行ってないです。不便ですから。日本で今、県、国が泊まる施設をつくっていないのです。ほかの国では国全体、県が委託して普通のお客さんが泊まれる施設をつくる。その考えはいかがでしょうかと思って、そうでないと民間でやっていると投資、いろいろな問題があるのでから。

でも、富山県で五つ星でなくてもいいのです。いろいろな案ですけれども、本当に外国人が楽しめる宿泊施設をつくれれば、県で、それだけでも例えば30部屋で60人ですね。8カ月ですぐ2万人になります。今、2万2000人来ているから、こんな日帰りでいろいろなところから来ている。その施設があれば多分増えるのではないかと思っています。だから、五つ星もそうですけれども、同じ考え方で他に石川県を見ると、やはり魅力的です。富山で魅力があるところが少ないので、つくる以外ないと思います。それは時間がかかると思う。5年とか、でも、そこは少し考えたほうがいいと思います。

【西村座長】

5年というのが有効に使えるのではないかと。

ほかはよろしいですか。今日は割合、皆さん、お行儀よく。ちょうど時間になりましたので、それでは、最後になりますが、石井知事のほうから一言いただければと思います。

【石井知事】

それぞれ多岐にわたる貴重な御意見、本当にありがとうございました。

最初に宇奈黒ダムルート、名前で盛り上がりましたが、これはまたよく御相談しながら、せっかくなら世界に向けて発信できるような、また、わかりやすい名前にしたいなと思っております。

ダニエル・モンテベルデさん、二度御発言がありましたが、まず英語はもちろんですけれども、フランス語とかドイツ語とか、やはり欧米の皆さんが立山黒部、また、それ以外もそうですが、富山の魅力がしっかりと伝わるような努力が要るのではないかというお話がありました。全然分

野は違うのですけれども、富山県のイタイイタイ病資料館というのが今、パンフレットは7カ国語とか、また音声もそれぐらい整備してしまっていて、立山黒部世界ブランド化に伴っても、そうしたように努力したい。また、ぜひモンテベルデさんに、こういう人に頼むと比較的リーズナブルな費用ですばらしい文章を書いてくれるような人を御紹介いただくとありがたいなと思いますので、また御相談させていただきたいと思います。

山田拓さんのほうからKPIとの関係で、もう少し具体的な数字を入れて立山黒部ルート of 経済効果なども含めて、そうした視点も大事にして全体として立山黒部の世界ブランド化に観光振興というものが富山県の県民生活にどういう寄与をするのかといったようなこと、そういう面からも何かしていったほうがいいのではないかというお話はそのとおりだと思いました。

また、具体的な高山の例で、一般的な魅力として伝統文化、食、田園空間とあるけれども、満足度が高いのは食だけだというお話もありました。あの高山でもそうかなというように改めてなるほどと思いました。我々も世界ブランド化と言う以上は何をアピールするのか。また、そのためにもどれだけさらに磨き上げていかなければいけないのか。また、いろいろと個別のアドバイスもいただきながらしっかり取り組んでまいりたいと思います。

また、黒部ルート of 安全対策、これは関電さんにやっていただくのですけれども、その安全対策も、もちろん安全も大事だと思いますので、また検討していろいろな意味で努力をしていきたいと思います。

森田さんからガイドが不足だという話もありました。観光の話、立山黒部世界ブランド化の話もそうですが、人ごとというか、特定の分野の方の問題ではなくて、多くの県民の皆さんにとって大切なテーマ。その後、高木さんからもお話がありましたが、何もしないと、かつて国内のお客さんだけでも150万人だったのが最近75万人、このままで行くと50万人ぐらいになるというのは本当に現実的な話だと思います。外国からのお客さんでカバーしてやると100万人ちょっとを切るという数字に来ているので、そうした問題意識というのを多くの県民の皆さんにも共有していただく必要があると思います。

ガイドさんについて、森田さんも御承知のように、とやま観光未来創造塾というのをつくって丸7年たったと思うのですけれども、そこにグローバルコースなどもつくりまして、実際に英語力のある方を何人か養成して八尾とか幾つかのところで活躍を始めた人もおりますけれども、こうした方をロールモデルにしながら、もっともっとそうした担い手を増やしていきたいと思っています。

また、観光に、ただ意見を言ったきりだけではなくて、担ってくださる人を増やさなければいけないので、幸い、この観光未来創造塾は西村座長さんに御尽力いただいているのですが、これまで532人、卒塾されていまして、そのほとんどの方が観光、さまざまな分野がありますけれども、実際に観光の担い手として活躍されている方も多いため、こういったものも今後とも幾つかの核の一つとして、さらにネットワークというものを広げていこうと思っています。

山田桂一郎さんのおっしゃった顧客データベースです。大変大切だと思います。私も御一緒にツェルマットに行きまして、やはり世界一流の観光地はホテルも全然レベルが違うなと本当に感じた次第です。ですから、そこは来るお客さんが大体最低でも2週間ぐらいの方が多くて、帰る

ときに来年また来るよと予約して帰るのです。家族で来る人も多いし、ですから、そういう形にうまく持っていけるように、これは既にTKKさんの中でもいろいろな努力もされていると思いますけれども、そうした皆さんとも連携しながら、またいろいろな分野で新規に参入したい方もいらっしゃると思いますから、できるだけアンテナを高くしてネットワークを広げるということで努力したいと思います。

また、五つ星ホテルという話が高木さんからございました。実際にも私どもも調べてみて五つ星ホテルを見てみますと、やはり大都市の場合もそうかもしれませんが、地方のそれなりの規模の都市でもせいぜい15室とか20室とかそのぐらいで、多分そこだけで見ると採算がとれていないのかなということもあるのですけれども、その五つ星ホテルを含むトータルの地域全体で採算がとれているという、むしろ、それを上回る新しいものを生み出していくということになると思うのです。そういう広い視野でしていきたいと思いますし、また、そういう施設ではほとんどの人が英語を使いこなして、ちゃんとしたもてなしができるという話がありましたが、そのとおりだと思いますので、また努力をしてまいりたい。

人材養成というのがどうしても課題でもあり、富山ではその辺では相当大きい、早くから努力しているつもりですけれども、さらに頑張りたいと思います。

山田拓さんのほうから高山でも日帰りの人が増えているという話もありましたが、久和さんや何人かのお話にありましたけれども、富山県にうまく拠点が置ければ、立山黒部だけではなくて高山とか金沢とかいろいろなところがありまして、それは逆に金沢から見ても同じなのですが、富山県は今までおかげさまでものづくり産業が盛んです。そういうことで日本の地方の中でも所得水準がトップクラスで高い地域でございますので、今までどちらかというと観光は製造業に比べるとその次か、次の次ぐらいの位置づけだったのです。

私はこれからの人口減少社会、グローバル化、いろいろなことを考えますと、富山県の産業、製造業、ものづくりだけではなくて、もう一本、観光というものをしっかり柱として立てていきたい。そういうことが10年後、20年後、30年後の富山県にとって非常に大事だと思っていますので、そういったことは経済界の方だけではなくて広く県民の方々にアピールしているつもりなのですけれども、相当理解が深まっていないとまだまだだなという面とありますので、おっしゃる点はごもつともでありましたから、また皆様と連携しながら努力してまいりたいと思います。

また、山を楽しむために山の上に宿泊するということなのか、山麓なのか、もう少し都市部なのかという議論もあるかと思えます。私はツェルマットやいろいろなところを見ると、それぞれに品ぞろえがよくなっている気もしておるのですけれども、例えば最近立山山麓ですごく新しい動きがありましたね。欧米の一流の方と地元の方が連携しながら、立山山麓にいろいろ例えばお酒の醸造施設をつくって、そこに外国の方も滞在したり楽しんだりできるという新しい取り組みをしようとしている皆さんもいらっしゃいます。これはどれか一つというよりは、いろいろな可能性を考えて、それぞれに全体としてネットワーク、実際、いらっしゃるお客さんにもいろいろな層の方がいらっしゃいますから、そういう高額なほうの、余りここの地域は今までどおりでいいのだと思込まずに、少し取り組んでいけたらと思います。

また、黒部ルートについては、申し上げるように私ももちろん黒部ルートを見学しております

けれども、地上をずっと行く黒部峡谷の形態とはちょっと違って、2カ所ぐらい外の風景、景観が楽しめるところもあります。それだけではなくて発電所すとか産業観光といいますか、厳しい環境の中で本当にある意味で、命がけで日本のために開拓する、そういったすばらしい歴史、文化があるわけで、そういったこともあわせてかなと思います。そういう貴重な空間だと思っておりますので、御指摘の点も踏まえて努力していかなければと思います。

ほかにもいろいろ貴重なお話、ありがとうございました。今後、皆様方のお力をいただいて、お知恵もいただいて、それなりに進んでまいりました。今後、例えば黒部ルートについては、今日もお話がもちろんございました。また宇奈月温泉とかいろいろな方々が当然関心も高いと思いますので、皆さんと連携しながら進めていきたいと思っておりますし、また、ロープウェイとか称名滝等については、もちろん環境省さん、立山町長さん、地元の皆さん、こうした皆さんとそれぞれ各論について詰めながら、しっかりと前進するように努力して、また、このブランド化会議もこのまま順調に行けば年に1回ぐらい年度末ということかもしれませんし、あるいは途中で大きな皆さんの御見識をお伺いしたいということになると、あるいは秋に1回またということもあるかもしれませんが、これまでいただいた貴重な御意見を生かしてしっかり取り組んでまいりますので、今後とも御指導、御鞭撻をよろしくお願ひしたいと思います。

【西村座長】

どうもありがとうございました。

それでは、時間が参りましたので、意見交換を終わらせていただきます。

議事進行に御協力いただいて、ありがとうございます。

それでは、進行を事務局でお願いいたします。